



明治維新の礎を築いた『月性』



公益財団法人 僧月性顕彰会

<https://gessho.net>

- ▶ 幕末の勤皇僧『月性』は、文化14年(1817)長州藩周防国遠崎(柳井市遠崎)の妙円寺(浄土真宗)に生まれました。幼いころの名前を知円と言い、のちに「月性」と改め、清狂と号しました。
- ▶ 母の尾上は、岩国市の光福寺に嫁いでいましたが、不縁となり実家である妙円寺に戻った時、お腹にはすでに一子を宿していました。それが「月性」でありました。
- ▶ 月性の幼い頃は、人一倍元気な腕白者で、学問など見向きもしない方でありましたが、母の尾上は、まれにみる賢母で、偏った愛情に流されることなく、常に厳格な態度で強く時に厳しく養育にあたりました。その努力はむくわれ、ほどなく月性は熱心に勉学に励むようになっていきます。
- ▶ 後に、この母が亡くなった時、吉田松陰が寄せた悔やみ状に対して、その返礼として、『母にして父を兼ね候人』と、母の優しさと父の厳しさを持っていた母の姿をしのんで、その恩のありがたさを心から述べています。
- ▶ 母や叔父のもとで成長した月性は、15歳の時、向学心に燃えて遠く九州(豊前市)の地に学問遊学に出発します。恒遠醒窓の漢学塾「蔵春園」の梨花寮に入ります。〔1831(天保2)〕
- ▶ 豊前の「恒遠醒窓」を師として約5年間入塾し、詩文の研究に傾注しました。優れた詩人としての基盤が培われ頭角を現します。高く評価された月性は塾頭に抜擢され、リーダーシップを遺憾なく発揮しました。
- ▶ 佐賀(善定寺)は、不及に仏典を学ぶと共に学者達とも交流を深めております。〔1836(天保7)〕
- ▶ 長崎の伊王島で、オランダ船を目撃し、異国に触れることで、ものの見方・考え方を広くしています。〔1838(天保9)〕
- ▶ この時の長崎での経験が大きく影響し、諸国をまわって見識を深め、海防僧として活躍するようになりました。
- ▶ 月性は、勤勉で勉学にも力を注いだ偉大な教育者でありました。また、詩(漢詩)を愛したすばらしい詩人でもありました。
- ▶ その代表作として、全国的にも有名な「将に東遊せんとして壁に題す」(立志の詩)がありますが、これは、月性27歳の時、勉学の旅(大阪)に出る際に、妙円寺の壁に書き遺した物です。〔1843(天保14)〕



男兒立志出鄉關學若無
成不復還埋骨何期墳墓
地人間到處有青山



月性劍舞の図
(立志の詩)

にじゅうしちねん うんすい み
二十七年 雲水の身

しゅう たず さんしん む
また師友を尋ねて 三津に向かう

じゅうはんば ひな
兒鳥反哺まさに 日無かるべし

わか しの ほくどうすいはく しん
別るるに忍びんや 北堂垂白の親

だんじこころざし た きょうかん い
男兒志を立てて 郷関を出づ

がくも な な またかえ
学若し成る無くんば 復還らす

ほね うず なん き ふんぼ ち
骨を埋むる何ぞ期せん 墳墓の地

じんかんいた ところ せいざん
人間到る処 青山あり

◎ 二十七歳になった今でも、まだまだ学ぶことが多く、こうして師や友を訪ねて大阪に向かう。今日まで勉学の為とはいえ、白髪が目立つようになった母に、仕えることもなく他郷にばかりある自分を思うと不孝の罪を感じずにいられない。

※ しかしながら、国を守る強い思いを止めることは難しい。

◎ 男子たる者が一旦、志を立てて故郷をあとにしたからには、学業が成就するまでは帰らない決意である。骨を埋めるのにどうして故郷の墓地に執着しようか。世の中には、どこへ行っても骨を埋める青々とした墓地があるでないか。そこで充分である。どの場所が墓場になっても良いように一生懸命やりぬくぞ!と、言った決意が述べられている。

- ▶ 「立志の詩」この詩は、学校の教科書に掲載され全国の青少年の志気を鼓舞しており、今も多くの人に愛唱されています。また、アジアの知識人たちにも、共感をもって広く受け入れられています。
- ▶ 憂国の志に燃えて、諸国の志士と交わった、熱血で行動派の月性は、一千篇以上の漢詩を書き遺した優れた詩人でもありました。

- ▶ 名声の高かった「篠崎小竹」の「梅花塾」に入塾し、早々塾頭に抜擢されています。その間、当代一流の諸名家・知識人と交流し、詩才を唱酬し、海防を論じて意見をたたかわしています。

- ▶ 行動派であった月性は32歳の時、私塾『清狂草堂』(別名・時習館)を開き、その学徳を慕って遠近各地より多くの志士文人が訪れ、活気にあふれておりました。〔1848(嘉永元年)〕

- ▶ 西の「松下村塾」、東の「清狂草堂」と言われ、明治維新に活躍する有能な人材を輩出しております。

主な門下生としては、「久坂玄瑞、赤祢武人、大洲鉄然、世良修蔵、大楽源太郎、入江石泉、天地哲雄、和真道.....

※後の四境の役・大島口の戦いで月性門下生たちの活躍で勝利を治めたその功績は、明治維新に多大なインパクトを与えております。

- ▶ 嘉永6年(1853)住職であった月性は、ペリー来航を機に一段と日本の国を守るべき海防の急務を叫んだ海防僧でもありました。
- ▶ 安政元年(1854)に藩政府へ建白書(意見書)で、『内海杞憂』という書類において、“海防五策”を進言しています。さらに、政治改革に関する意見書として『封事草稿』を記していきます。
- ▶ 身分を問わず『志あるものは、武士だけでなく農民や一般庶民も外国に対抗できるような信念をもつ』と、言う、いわゆる“農兵隊構想”(海防五策)は、のちに、高杉晋作の“奇兵隊”結成となって実を結び、明治維新の原動力となっていきました。
- ▶ 安政3年(1856)京都西本願寺広如門主の召命により、建白書「護法意見封事」を、上呈しました。この書は後に、「護国論」となり全国1万のお寺に頒布された月性畢生の大作であり、明治維新に大きく貢献しました。
- ▶ 国事に奔走した月性は、広く名士と交遊し、尊王論・海防論・倒幕論等々を強く唱えました。
- ▶ この様な思想を長州に一早く持ち込んだのが月性で、「吉田松陰」とその門下生は、『月性』の思想を学び、『月性』の影響を大きく受けて、長州藩の原動力となって明治維新の改革を成し遂げております。
- ▶ 吉田松陰に多大な影響を与え、松陰は月性を師と仰ぎ月性の思想が、松陰の「草莽崛起」と言う考え方に繋がっていきました。
- ▶ また、長州藩の重臣 村田清風、家老の益田弾正、福原越後、浦鞆負なども月性の“海防護国”の主張に共鳴して、しばし領内に講説せしめています。
- ▶ 「月性」の教育活動や講筵活動は、月性の法談を通してその思想が広く藩内一円、村里の隅々まで浸透し、民心に強い反響を起こしたことを吉田松陰は高く評価していました。
萩(明安寺)での講演の際には、吉田松陰は松下村塾を休講して、塾生(門下生)を聴講させています。
- ▶ このように、吉田松陰は、『長州で最も才知が優れ称賛すべき人物は、月性である』と、書き遺しています。
- ▶ さらに、松陰は、月性の著書「清狂吟稿」と「護国論」を天下の同志に寄示(届け見せる)・出版するよう、「留魂録」の中に書き遺しております。〔1859(安政6年10月26日)〕
- ▶ 安政5年(1858)旧暦5月10日夜、君国の将来を案じながら辞世の詩一篇(書物)を遺し、維新の黎明(夜明け)を見ることなく42年の生涯を閉じました。
- ▶ 時代がひどく変わろうとしている幕末の時代に、その動きを察して、暁の鐘を鳴らした先覚者『月性』は、すぐれた詩人であり、偉大な教育者でありました。

❖❖❖ 明治24年12月に『正四位』を贈られました。❖❖❖

<僧侶としての、贈位は国内初の事でした！>



● 月性墓〔指定文化財〕

妙円寺本堂の境内、三段の礎石の上に高さ102.5cm、幅92cm、の墓碑が立つ。正面に「清狂師之墓」の陰刻のほか文字はない。後方に琴石山、三ヶ岳を眺め、簡素な中にも堂々とした師の風格をしのばせる33回忌の際、有栖川宮熾仁親王(ありすがわのみや たるひとしんのう)伊藤博文等が、月性を偲び墓参されている。



● 月性顕彰碑〔指定文化財〕

清狂草堂の北側に立つこの月性顕彰碑は、西本願寺、毛利公爵、山縣侯爵をはじめ、子爵、男爵等、豪家の寄附により、50回忌を記念して明治40年12月に建立された。篆額の「贈正四位月性師碑」は、「毛利元昭」、碑文は、「山県有朋」の撰で、筆は周防国徳山の「赤松連城」による。また文中「独り月性方外(僧)の身を以て憤慨義を唱え、君を愛し国を憂う己に私より甚し」とあり、月性の減死奉公の精神が述べられている。



● 清狂草堂〔指定文化財〕

嘉永元年(1848)妙円寺境内に私塾「清狂草堂(別名:時習館)」を開塾した。32歳の春であった。開塾とともに遠近各地からその学徳を慕って入塾する者が多く、維新史上に多大の業績を残した人材を多数輩出した。明治23年、師の33回忌にあたり、大洲鉄然、入江石泉、天地哲雄等の門弟によって旧草堂を模し、記念館として建てられた。その名のとおり茅葺の六畳、四畳半二間だが、西の「松下村塾」、東の「清狂草堂」としての風格がある。



● 立志の碑

妙円寺境内に立つ立志の碑は、昭和44年に建立された。表に「男児 立志 … 有青山」の詩が刻まれている。この詩の形式は、七言絶句で「男児立志出郷関」の前に「二十七年雲水身」の四句がある。これは白髪の老婆を郷里において行くのは忍びないと親を思う心情をうたった文であり、あわせて八句が月性師自筆松陰神社所蔵の「清狂吟稿」の中の「将東遊題壁」である。また、後の四句を七言絶句として、詩題「題壁」(壁に題す)が世に伝えられたものである。



● 月性展示館〔有形文化財(約1,000点)〕

昭和45年に開館。以来、常設約600点を展示している。

- ★ 入館料 … 大人200円。高校生以下無料。団体割引有り。
- ★ 休館日 … 月曜日(※国民の祝祭日等は、開館。)
- ★ 開館時間 … 午前9時～午後4時
- ★ 問合せ先 … 月性展示館 電話/FAX 0820-23-7259



● 妙円寺本堂

僧月性(第十世住職)ゆかりの寺。また慶応2年、四境の役大島口の戦いに、第二奇兵隊の本陣となり、高杉晋作が指揮を執る。昭和60年建替。



● 表門(山門)〔指定文化財〕

1715年正徳5年に建てられたと思われ、末寺では珍しく見栄のある山門である。久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文、有栖川宮熾仁親王(ありすがわのみやたるひとしんのう)赤祢武人、世良修蔵、大洲鉄然、頼三樹三郎、宇都宮黙霖、秋良敦之助、入江石泉、大楽源太郎ほか諸国の志士文人が、月性師と時務を談ずるためこの表門(山門)をくぐっている。